

【子どもネット研、第9期活動報告】
保護者向け研修講師の役割を
保護者に寄り添う「ファシリテーター」と再定義

～「ファシリテーター」のスキルを“関わり力”と“知識・技能”の2領域で体系化

研修会開催のねらいを明確化する「打ち合わせシート」も提供開始～

子どもたちのインターネット利用について考える研究会(座長:お茶の水女子大学 教授 坂元 章、以下「子どもネット研」)は、2017年9月から取り組んできた第9期「保護者向け研修講師に求められる『伝える力』の体系化」の活動報告書を取りまとめ、本日より研究会ウェブサイトで公開します。あわせて、研修会講師と主催者との事前の意思疎通を助ける「インターネットセーフティ講座開催のための打ち合わせシート」の提供も開始します。

近年、青少年のインターネット利用に関わる諸問題についての保護者向け教育啓発の重要性が、国や自治体にも認識され、官民の取り組みが活発になる一方、教育啓発を行う講師の質と量の充実が課題となっています。また、研修会主催者と講師の意思疎通不足で、思ったような学習効果を得られなかったといった事例も見受けられます。

こうした状況を受け、子どもネット研では、第9期(2017年度)の活動テーマを「保護者向け研修講師に求められる『伝える力』の体系化」とし、研究・調査を続けてきました。保護者を対象とした研修講師のあるべき姿を考えるにあたっては、生涯学習(社会教育)の領域における知見や各地での教育啓発実践状況の調査に加え、講師の資質・能力など多くの要素について、学校教育の領域における情報モラル教育や教員養成に際する教育学、教育方法論、教育工学等における先行研究が参考になると考え、ワーキンググループ(主査:子どもネット研委員 江戸川大学 教授 玉田和恵)を設置し、メンバーにインターネットセーフティに関し先進的な取り組みを行う、秋田県教育庁生涯学習課より、森川勝栄社会教育主事を迎え※1、検討を進めてきました。

その結果、大前提として「保護者向け研修講師」は知識を伝えるインストラクターの役割だけにとどまらず、保護者の自発的な学びや、問題解決を支えるような学習機会を創出、運営する「ファシリテーター」を目指すべきと結論づけました。そうした役割を果たすために備えるべき力を「関わり力」・「知識・技能」の2領域に整理しました。

また、研修会など教育啓発の実際の場面における、研修会講師と主催者の意思疎通を助けるために、ガイダンスに沿って記入することで、研修会の目的や内容などを事前に明確な形で共有できる「インターネットセーフティ講座開催のための打ち合わせシート」を提供いたします。今後、本研究会の連携団体 一般社団法人セーフティーインターネット協会の担当する研修会などで、主催者側との事前協議に適用しながら改訂を行う予定です。

※1 秋田県教育庁生涯学習課 森川勝栄社会教育主事は、官民連携の一環として、子どもネット研事務局を務めるヤフー株式会社 に2017年10月から3ヶ月間派遣され、第九期の中心研究メンバーとして、ワーキンググループに参画いただきました。

■参考資料:「保護者向け研修講師が備えるべき力」の概念図



■参考資料:「関わり力」を構成する主な要素

	講師として求められるすがた	現実に見られる不適切な例
主体性	目標設定～結果評価のフィードバックを講座ごとに実施するとともに、自らの知識技能を刷新し続けるための取り組みを続けている。	<ul style="list-style-type: none"> 入力集計の手間がかかることなどを理由に、受講者アンケートなど定量的定性的評価の機会をほとんど作らない。 「恥ずかしいから」などと講座の録音・録画や振り返りを避ける。
受容性	受講者の年齢層（子どもの学齢）やネットの知識、学習経験や意欲などを出発点として、いつも学習者優先で講座を企画・運営している。	<ul style="list-style-type: none"> 講座主催者からの要望に応じず一律の教材を使い、予め決まった少数パターンでの講座のみを実施している。
創造性	自らの講師経験で得た事例や、他の領域の専門分野を援用して、より多様な受講者に有用かつ魅力的な講座を企画・運営するように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 受講者に合わせた改善や創意工夫を加えることなく、他者から与えられた教材等をそのまま利用している。
継続性	学校や関係する行政部門などと協働し、研修会など学習の機会を増やすなど、受講者の行動変容を継続的に支援するように取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 研修会に呼ばれるたびに、一回限りの出番を無難にこなすことに終始している。
方向性	自らもインターネットを活用し、受講者はもちろん、広く地域の関係者に対してもインターネットセキュリティの意義が伝わるよう取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 危機意識をあおるばかりで、受講者が萎縮し、学習意欲を削いでしまうため、子どもたちが適切な利用経験を積む機会を奪う結果につながる講座を企画・運営している。

■参考資料:知識として必要な項目要素と主な内容

知識として必要な項目要素	主な内容
問題の本質的理解	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを子どもに与える理由 トラブルが子どもに与える影響 問題の優先度づけ
子どもを取り巻くネット環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な利用とトラブル 機器やサービスの普及状況
問題が起こる要因	<ul style="list-style-type: none"> 利用者側の理由（知識の不足、経験と成熟、それ以外） 環境側の理由（サービス側のビジネスモデル）
仕組みの理解	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術の知識（信憑性、公開性、記録性、公共性、流出性/侵入可能性） メディアを介したコミュニケーションの特性（非対面、一対一・多対多、依存性） 変化する技術特性（機器性能・形態の変化、サービスの変化） 心理的・身体的な特性
具体的な問題事例	<ul style="list-style-type: none"> 特に原状復帰が難しい問題 身近な問題 問題が起こる仕組みと関連させた解説
学校・家庭の役割	<ul style="list-style-type: none"> 学校などによる教育啓発の実態 保護者（家庭）の役割（段階的利用モデルを含む） 地域での協働の可能性や実例
トラブル対応	<ul style="list-style-type: none"> トラブル発生時の適切な対処（具体的な相談先の紹介を含む）
トラブル予防への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での環境整備 子どもとの協働的な学習のあり方

■活動報告書および「インターネットセーフティ講座開催のための打ち合わせシート」について

活動報告書および打ち合わせシートは、本日より研究会のウェブサイト上に掲載します。

第9期活動報告書

<https://www.child-safenet.jp/activity/3075/>

「インターネットセーフティ講座開催のための打ち合わせシート」

https://www.child-safenet.jp/material/hearing_sheet/

■「子どもネット研」について

子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)は、子どもたちのインターネット利用をより豊かで安心なものにするために、諸課題を調査・研究し、保護者や行政・業界関係者向けに整理された情報を提供するために2008年に設立された専門家会議です。事務局はヤフー株式会社、ネットスター株式会社およびアルプス システム インテグレーション株式会社が担当している他、ピットクルー株式会社が運営に協力しています。子どもの発達や教育、メディアとの関わりに詳しい学識経験者を中心に、学校関係者や保護者が集まり、これまでに「子どもたちの段階的なインターネット利用デビューのあり方」や「保護者向けの教育啓発のあり方」、「未就学児の情報通信機器との付き合い方」など調査研究し、その結果を関係者に提言しています。またPTAや地方自治体と協力し、安全利用のための教育啓発活動の実践やその効果測定にも取り組んでいます。

<https://www.child-safenet.jp/>